

平成30年度学校評価（職員自己評価） ＊中間評価

「4」十分達成できている 「3」おおむね達成できている
 「2」どちらかという達成できていない 「1」ほとんど達成できていない

種	重点目標	評価項目（具体的な取り組み）	評価
教務	授業ファースト	1 家庭学習・三点固定の可視化を行う。	2.5
		2 3年生系列授業の発表をする。	3.3
		3 2年生系列授業公開する。	3.6
	生徒募集・定員確保	4 オープンスクールや学校説明会を人気と好評のある媒体にする。	3.3
		5 中学校訪問の充実を図る。	3.5
	広報	6 viva! HIGH SCHOOL やCMで学校の様子がよく伝えられている。	3.3
		7 ホームページの更新頻度を高くし、活性化させる。	3.5
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	1 HR、授業、集会時の挨拶（語先後礼）指導を徹底する。	3.2
		2 掃除の10分間の無言作業を徹底する。	2.6
	生徒会活動	3 専門委員会顧問会・委員長会の実施する。	3.5
		4 行事の活性化の為、アンケート等の実施する。	3.0
	健康相談等の充実	5 気になる生徒の情報を教員間で共有する。	3.3
		6 スクールカウンセラーや外部機関からの情報を活用する。	3.3
進路指導	高大連携	1 普通科総合選択制の特徴を生かし、長崎女子短期大学と充実した連携を図る。	3.4
		2 長崎女子短期大学の入試に向けて十分な指導ができた。	3.6
	進学指導	3 校外模試等を計画的に実施し、生徒の客観的な学力把握に努める。	3.2
		4 まなび講座の時間を確保し、計画的な学習指導を行う。	3.2
	就職指導	5 ハローワークと連携をはかり、就職率100%を目指す。	3.3
		6 SPI講座の時間を確保し、計画的な学習指導を行う。	3.4
1年	学習の習慣化	1 課題を確実に提出させることで学習の習慣を身に付ける。	3.2
	高校生活の定着	2 語先後礼の目標のもと、日常生活の中での挨拶を習慣化する。	3.1
		3 無言作業の目標のもと、身の回りの整理整頓を含めた清掃活動を定着する。	2.9
		4 その場に応じて、自ら判断して行動できる。	2.7
	キャリア教育の充実	5 いろいろな職業を知り、自らの責任で系列、選択科目を選択する。	3.2
		6 系列ごとに集会を開き、次年度に繋げる。	3.3
2年	家庭学習の習慣化と学力向上	1 家庭学習を十分に行えていない生徒に対して家庭学習を促す。	2.8
		2 欠点を取らないようにする。また、基礎力診断テストのGTZのD3の生徒を減らす。	2.7
	豊かな心を育ませる	3 友人・教職員・来校者への挨拶を徹底する。	3.1
		4 日常会話の中での言葉遣いを意識する。	2.8
	進路目標を決定させる	5 進路講話やインターシップなどを通して自分の進路と向き合い、進路意識を強く持たせる。	3.3
		6 生徒の進路目標を明確にさせる。	3.1
3年	最高学年としての自覚を持たせる	1 学校活動に積極的に参加し、思いやりの心とリーダーシップを育む。	3.2
		2 社会に通用する礼儀作法を身に付ける。	2.9
	学力向上、受験に対応できる学力を養う	3 進路目標の達成にむけてプラスOneスタディを活用し、実力の向上を図る。	3.3
		4 系列学習での学びを深め、自分の考えを述べる表現力を養う。	3.1
	豊かな人間力を育む	5 進路実現に向けて、積極的に行動する。	3.2
		6 キャリア教育を通じて、社会の動向に目を向け、幅広い視野を養う。	3.0
教育全般	普通科総合選択制の構築と充実	1 スタダードスタディを充実し、基礎学力養成の必要な生徒に対し組織的に指導を行う。	3.1
		2 ドリカムスタディにおける系列別授業・自由選択授業の検証(学期毎)と充実を図る。	3.1
		3 マイプラン(キャリア教育)の指導案を毎時間作成し、授業にあたる。	3.7
		4 プラスワンスタディの目的を生徒に理解させ、有効活用を意識させる。	3.2
	教育活動	1 4月導入期に関する検証をする。	3.3
		2 夏休み学習会に関する検証をする。	3.1
		3 各分掌・学年で継続的に指導を徹底する。	3.0
	職員研修	1 教科指導や生徒指導の資質向上のために日々研鑽に励む。	3.0
		2 分掌会・学年会を活性化し、計画的に組織としての教育実践にあたる。	3.2
		3 二人担任制の特性を生かし、クラス経営の充実にも努める。	3.3

- 重点目標の達成に必要な具体的な取り組みを評価項目として設定する。
- ・評価項目の達成状況を把握するための指標を設定する。
 - ・必要に応じて、指標の達成状況を把握（評価）するための基準（数値）を設定する。
 - ・指標は、生徒の人格の形成（成長）を目指すものを重視し、その達成状況に着目すると同時に、組織的・効果的に取り組む過程にも着目して設定する。